

HISATO OSAWA



「第47回井植文化賞報道出版部門」
受賞記念

大澤壽人 **VIII** スペクタクル

開場 / 13時15分

開演 / 14時・ロビー展示あり

会場 /  神戸新聞 松方ホール

写真:神戸女学院所蔵資料「大澤壽人遺作コレクション」

SPECTACLE

2024
11/16
sat [ⓧ]

神戸が生んだ
天才作曲家の
名品と古今の名曲

小倉直子

大澤ピアノ作品

全曲演奏シリーズ

【第4回】



HISATO OSAWA

SPECTACLE 大澤壽人スペクタクル

VIII

目次 *Contents*

- 1 ごあいさつ「大澤壽人の音楽遺産と第47回井植文化賞」 2
- 2 大澤壽人の偉業 3-6
- 3 プログラム 7-8
- 4 出演者プロフィール 9-10
- 5 プログラムノート「神戸が生んだ天才作曲家の名品と古今の名曲」 11-19
- 6 公式ホームページ「大澤壽人 煌きの軌跡」ご案内 20
- 7 作品の発掘から公開演奏へ
「大澤壽人スペクタクル」における初演と再演 21-22





Greetings

ごあいさつ

大澤壽人の音楽遺産と第47回井植文化賞

本日は「大澤^{おおさわ ひさと}壽人スペクタクルⅧ」にご来場下さいまして、ありがとうございます。

大澤先生(1906/明治39~1953/昭和28)は神戸生まれの作曲家・指揮者です。関西学院高等商業学部卒業の1930年にアメリカに留学すると直ちに頭角を現して、1933年には日本人として初めてボストン交響楽団を指揮。続くフランスでは1935年にパリデビューとなる自作自演の演奏会を開催。大成功を収めて、輝くばかりの国際的キャリアを築きました。

ところが翌1936年に帰国すると、欧米楽壇と日本楽壇の落差に直面します。海外で磨かれた先鋭の作風は理解されず、その背後で、日中戦争から太平洋戦争へ向かう道を国は歩み始めていました。

しかし、先生はその間も筆を止めることなく、ジャンルを演奏会用作品から放送や映画音楽へシフトして作曲。戦後は音楽による心の復興を目指し、ラジオを通じて愛情こもる編曲作品を人々に発信し続け、時代の寵児として活躍なさいました。その最中にわずか47歳で急逝されるも、圧倒的な創作力で1000近い作品を遺されました。

それから半世紀以上も時が経過し、藤本賢市記者のスタブ記事と片山杜秀氏監修のCDリリースによって、忘れられていた先生が再び注目を集めます。奇跡的な「平成の復活劇」が起こったのです。以降、この20年ほどの間に先生への評価は高まりつづけ、大澤作品を演奏したマエストロたち一飯守泰次郎・飯森範親・岩村力・佐渡裕・寺岡清高・外山雄三・本名徹次・山田和樹氏(五十音順)一が称賛を贈っておられます。

復活劇と同時期の2006年、大澤家は総数3万点に及ぶ遺品を神戸女学院に寄贈なさいました。「大澤壽人遺作コレクション」と命名された遺品資料は、特別編成

チームによって学術調査が開始され、私は学内の協力を得て陣頭指揮をとりました。自筆譜の山からは貴重な作品が次々と「発掘」され、それらをスタッフと共に2冊の目録『煌きの軌跡I・II』に編纂。学校から刊行された事によって、それまで幻だった先生の活動の全貌が明らかになりました。神戸女学院での教育だけでなく、コンサートや放送、映画や舞台など、多くの分野を牽引し、後に続く者を育てていかれたのです。

先生は激動の20世紀前半に生涯を送りました。あふれる才能と世界楽壇に通じる実力を持ちながら、それを十分に発揮できない時代に立ち向かい、敗戦後の社会に音楽の力で貢献した芸術家魂に感動を覚えます。

この不世出の天才の存在を音楽遺産として後世に伝えたいと、さまざまな形で普及に努めてまいりました。「スペクタクル」シリーズ主催を中心に、評伝執筆や講演会、楽譜出版や回顧展監修、ホームページ開設や自主CD制作など、これまでの活動を総合的に評価され、2023年秋に公益財団法人 井植記念会より「第47回井植文化賞報道出版部門」を賜りました。8回目となる今日は、その受賞記念としてプロデュースいたしました。

2009年に「大澤資料プロジェクト」を教え子であるスタッフと共に立ち上げ、第1回で日本最初期の《ピアノ協奏曲第一番 二台のピアノ版》世界初演、第2回で出征兵士を想う《つばめに託して母の歌える》復活初演などを皮切りに、設立時の想いを糧に全力で走りました。ここに感謝して彼女たちの名前を記します:増永智子(リーダー)・松川峰子・高野雅子・田中聖子さん。大澤先生が彼女たちの奮闘をどこかで見守って下さったことでしょう。

では、最後までごゆっくりお楽しみくださいませ。

生島美紀子(大澤資料プロジェクト代表)

HISATO OSAWA

SPECTACLE 大澤壽人スペクタクル

VIII

大澤壽人の偉業

留学前 Before studying abroad

1928 神戸オラトリオ協会合唱団を設立、独学で作曲・編曲・指揮を行う

1929 関西学生オーケストラ初の全曲演奏ピアノソリスト
W. A. モーツァルト《ピアノ協奏曲第20番》

戦前のボストン Boston before World War II

1930 邦人初のボストン大学
音楽学部における作曲専攻生

1932 邦人初のニューイングランド音楽院における
作曲専攻生
邦人初の四分音使用演奏会作品《チェロソナタ》
作曲・公開演奏
ボストン大学部生初の管弦楽作品《小交響曲》
作曲・自らの指揮で初演



1931年ボストンの下宿で

1933 日本最初期の《ピアノ協奏曲》作曲、ボストン大に卒業作品として提出
邦人初の演奏会用無調作品《ウッドブロックス》《シンバル》作曲・公開演奏
邦人初のボストン交響楽団指揮、ボストンシンフォニーホールで《小交響曲》披露

1934 邦人初のA. シェーンベルクとの出会い、感化を受ける
邦人初の前衛的ピアノ曲集を連作風に作曲
《六つのカプリチエッティ》《パターンズ》《小デッサン集》
邦人作品で最大規模編成の《三つの田園交響楽章》作曲
邦人初の《コントラバス協奏曲》作曲 … S. クーセヴィツキに献呈
邦人作品で最大規模編成の《交響曲第一番》作曲 … F. コンヴァースに献呈
平成の世界初演でその完成度が話題を呼ぶ

1933-1934 邦人初の「交響四部作」を誇る創作量 … ボストンでの作品総頁数は約1,000枚



1933年ボストン大学卒業式



1934年頃ボストンからパリに渡る頃



戦前のパリ Paris before World War II

- 1935** エコールノルマル音楽院でP. デュカ最晩年の弟子となる
邦人初の演奏会用《小ミサ曲》作曲
邦人初のコンセールバドゥルー管弦楽団指揮、パリ・デビューコンサート開催
日本の交響曲創作において先駆ける《交響曲第二番》作曲・指揮
邦人初のH. ジル＝マルシェックスによる初演大作《ピアノ協奏曲第二番》作曲・指揮
「日本からのパリ楽派」と称される成功により、邦人作曲家に稀な国際的キャリアを築く
[ボストン・パリ留学期の演奏会用作品約70曲]

帰国から戦中まで After returning to Japan up to World War II

- 1936** 東京と大阪で帰朝演奏会開催
世界初演4曲・日本初演4曲
日本初のH. ベルリオーズ《リア王序曲》指揮
日本初のM. ラヴェル《古風なメヌエット》指揮
放送音楽《山の協奏曲》作曲
… このジャンル総数は生涯に約130曲



帰国後自作自演の演奏会

- 1937** 映画音楽を作曲 … ジャンル総数は約40作
日本最初期の《ヴァイオリン協奏曲》「支那詩」作曲・指揮
日本の交響曲創作において先駆ける
《交響曲第三番 建国の交響楽》作曲・指揮

- 1937-1940** 「紀元二千六百年 奉頌三部作」作曲・指揮

- 1938** 《ピアノ協奏曲第三番 神風協奏曲》作曲・指揮
… 平成のCDリリースで一躍再脚光を浴びる

- 1939** ボストンで作曲した《ソナチネ》日本初演

- 1940** 日本初のM. ラヴェル《ケープランの墓》管弦楽版指揮・放送

- 1941-1943** 日中戦争から太平洋戦争終結までに新讃美歌3曲を作曲

- 1943** 画家(田村孝之介・小磯良平)と詩人(竹中郁)との合作による放送劇《つばめ通信》作曲・放送

- 1944** 魂の音楽《ベネディクトゥス幻想曲》作曲・放送
… 令和のコンサート形式による世界初演で感動を呼ぶ



1936年楽譜と愛用の指揮棒

HISATO OSAWA

SPECTACLE

大澤壽人スペクタクル

VIII

大澤壽人の偉業

終戦から急逝まで From the end of World War II until his sudden death

- 1945** 戦後初の神戸女学院クリスマス礼拝で、米兵と合同の合唱 ヘンデル《メサイア》指揮
- 1946** 進駐軍がもたらしたジャズサウンドへの関心 … 編曲の世界が花開く
ラジオ歌謡《ハロー・ジョー》作曲・放送 … このジャンル総数は約10曲
戦後初の演奏会「シルバーシリーズ・コンサート」作曲・指揮、大阪中央公会堂に聴衆約1,000人
- 1947** 日本初の《サクソフォン協奏曲》作曲・指揮・放送
戦後初の「神戸女学院音楽科演奏会」… 大阪朝日会館に聴衆約1,600人
神戸女学院のための宗教曲《雲のファンタジア》作曲・指揮
スポーツ復興のための《マッカーサー元帥杯大会の歌》作曲
松竹歌劇団のための《よし原物語》作曲 … 舞台用音楽は松竹・宝塚合わせ16公演
ジャズバンドのための《蝶々の歌 ジャズ変奏曲》作曲
- 1948** 関西学院創立60周年記念歌《弦月》作曲・西宮球場で指揮 … 母校のための歌は生涯に6曲
- 1949** 関西学院創立60周年記念祝祭事業「近代アメリカ形式による交響演奏会」作曲・編曲・指揮
… 北野劇場前で巡査と米国憲兵が聴衆の整理にあたる人気
関西初のF. グローフェ《グランド・キャニオン》指揮・放送
サクソフォンとピアノと管弦楽のためのジャズ風協奏曲《ペガサス狂詩曲》作曲・指揮・放送
西宮市立浜脇小学校《校歌》作曲 … 校歌は生涯に約50曲
- 1949-1950** ポップス系オーケストラ3団体を設立、作曲・編曲・指揮





- 1950** 日本初の《トランペット協奏曲》作曲・指揮・放送
神戸市文化会館建立促進のための《みどりの祭典》作曲・指揮、宝塚大劇場で500人の大合唱
「空前の顔合わせと新バラエティ形式による希望交響大音楽会」作曲・編曲・指揮
… 歌舞伎座で日本舞踊家の花柳有洸・宝塚歌劇団の越路吹雪が出演
《神戸女学院創立75周年記念の歌》作曲・指揮



1950年大阪毎日新聞写す

- 1950-1951** 現NHK大阪放送局で音楽番組「BKシンフォネット」企画・作曲・編曲・指揮・放送
- 1951** 日本初のA. シェーンベルク《六つの小さなピアノ曲》編曲・指揮・放送
《トヨタ自動車の歌 ドライブ・バビー》作曲 … 企業歌・地域歌は約40曲
- 1951-1952** 現NHK大阪放送局で音楽番組「シルバertime」企画・作曲・編曲・指揮・放送
- 1952** ABC朝日ラジオ放送専属作曲家・編曲家・指揮者
ABC朝日放送1周年祝典曲《電波へのハレルヤ》作曲・指揮・放送
東大寺のための《大佛千二百年祝典譜》作曲・指揮・放送
… 文部省芸術祭参加作品音楽賞・民間放送連盟音楽賞受賞
- 1952-1953** 「ABCシンフォネットアワー」「ABCホームソング」企画・作曲・編曲・指揮・放送
- 1953** 「たそがれコンサート」作曲・編曲・指揮…西宮球場に聴衆2万5千人
日本初のG. メノッティ《電話》訳詞・編曲・指揮・放送
放送オペラ《邯鄲》作曲・指揮・放送
[帰国以降の演奏会用器楽作品約50曲、声楽作品約20曲]

HISATO OSAWA VIII

SPECTACLE 大澤壽人スペクタクル

プログラム

Program

「大澤壽人の音楽遺産と第47回井植文化賞」

生島 美紀子 (Lecture)

I部

ピアノ作品

小倉直子 大澤ピアノ作品全曲演奏シリーズ第4回

S. ラフマニノフ 《幻想的小品集》作品3より 第3曲〈メロディ〉

《13の前奏曲》作品32より 第5曲〈前奏曲ト長調〉

《幻想的小品集》作品3より 第2曲〈プレリュード〉モスクワの鐘

C. ドビュッシー 《ベルガマスク組曲》より 第3曲〈月の光〉

《前奏曲集第1集》より 第10曲〈沈める寺〉

大澤壽人

ねんね河童——愛児^{むらこ}邑子の霊前に供えて(1937年神戸)世界初演

ウッドボックス(1933年ボストン)校訂者による初演

小倉 直子 (Pf)

II部 声楽作品とヴァイオリン作品

R. シューマン 《3つの詩》作品29より 第3曲〈流浪の民〉

大澤壽人 《ABC朝日放送ホームソング集》より(1952-53年西宮)

朝の九時過ぎ／喜志邦三詩

マッチの箱／竹内はじめ詩

晩秋／渡辺勉詩

泣き黒子のラブ・コール／安西冬衛詩

猫の子あげますいらっしゃい／竹中郁詩

杉浦 希未 (Sop) 村井 優美 (Alt)

総毛 創 (Ten) 宮尾 和真 (Bar) 金月 里紗 (Pf)

大澤壽人 桜に寄すUne voix à "SAKURA"ピアノ伴奏版／大澤壽人詩(1935年パリ)

杉浦 希未 (Sop) 金月 里紗 (Pf)

P. サラサーテ ツイゴイネルワイゼン 作品20

J. マスネ 歌劇《タイス》より 間奏曲〈タイスの瞑想曲〉

大澤壽人 ヴァイオリン小協奏曲「支那詩」(1936年神戸)

第1楽章: Allegro moderato

眞田 彩 (Vl) 須山 由梨 (Pf)

HISATO OSAWA VIII

SPECTACLE 大澤壽人スペクタクル

出演者プロフィール

Profile



写真:住本真理子

小倉 直子 ピアノ

Ogura Naoko

桐朋学園大学卒業後、パリに留学。エコールノルマル音楽院を演奏家資格を得て卒業。パリ国立音楽院ピエール・サンカン主任教授の薫陶を受け、フランス国内外で演奏活動を行い、洗練されたテクニックと音楽性を絶賛された。帰国後はデビューリサイタルで「ライオンズ音楽賞」受賞。協奏曲のソリストとして出演を重ねて、大阪市制定「第1回咲くやこの花賞」受賞。ザ・シンフォニーホールのリサイタルは満場の聴衆を集め、大成功を収めた。この間マルセイユ音楽院ピエール・バルビゼ院長に招かれ、同地でリサイタル開催。リスボン国際音楽コンクール審査員を務めるなど、幅広い活動が高い評価を受けている。2015年より大澤壽人氏のピアノ作品全曲演奏シリーズに取り組んでいる。

《ウッドボックス》《ソナチネ》新版楽譜を校訂。2024年CDをリリース。

声楽アンサンブル

Voice Ensemble



杉浦 希未 ソプラノ

大阪音楽大学大学院、ウィーン国立音楽大学を卒業。これまでにイタリア、オーストリア、ドイツ、チェコの各地で演奏会に出演。現在神戸市混声合唱団団員、大阪音楽大学演奏員。

村井 優美 アルト

大阪音楽大学短期大学部卒業。オペラ、宗教曲のソリストも務める。現在、神戸市混声合唱団団員、大阪音楽大学演奏員、女声コーラス「コール・リーベ」「花音」各指揮・指導者。

総毛 創 テノール

大阪教育大学芸術専攻音楽コース卒業。神戸市混声合唱団所属。奏楽堂日本歌曲コンクール入選。松本幸三、玉井裕子、清原邦仁、北村敏則、松本薫平、の各氏に師事。

宮尾 和真 バリトン

京都市立芸術大学院修士課程修了。平成28年度公益財団法人青山財団奨学生。第72回全日本学生音楽コンクール大阪大会入選。これまでに声楽を武田節子、上野洋子の各氏に師事。現在、神戸市混声合唱団団員。

金月 里紗 ピアノ

神戸女学院音楽学部ピアノ専攻卒業。作曲セカンドメジャー修了。現在、西神戸混声合唱団、女声アンサンブル「プティ・タ・プティ」、神戸市混声合唱団ピアニスト。

眞田 彩 ヴァイオリン

Sanada Aya



写真:堀克樹

東京藝術大学音楽学部附属高校を最高得点で卒業。Arimathea Charitable Trustより奨学金を得て、英国王立音楽院ヴァイオリン科首席卒業。Mortimer Development Award 2005/06、副校長賞受賞。マキシム・ヴェンゲーロフとのマスタークラスDVD発売。21歳にて、ロンドン Wigmore Hallで開催された、1813年設立

Royal Philharmonic Society Emily Anderson Prize(1名)を日本人歴代2人目として、審査員全員一致で受賞。NHK-FM名曲リサイタル、BSフジ番組挿入曲、国内外の式典に多数招待出演。近年は、地域活性化プロジェクトに参加している。2017年、大澤壽人作曲《ヴァイオリン小協奏曲 支那詩》ピアノ伴奏版全楽章を世界初演。

須山 由梨 ピアノ

Suyama Yuri



神戸女学院大学音楽学部を経て、同大学院音楽研究科修了。在学中にハンナ・ギュリック・スエヒロ記念賞、特別伴奏賞を受賞。大学院修了後はイタリアへ渡り、ボリス・ベクテフ氏のもとで研鑽を積む。KOBE国際音楽コンクールピアノC部門奨励賞等を受賞。神戸女学院大学音楽学部伴奏要員を経て、現在、大阪成蹊短期大学幼児教育学科特別

専任助教。神戸オペラカンパニー会員。2017年、大澤壽人作曲《ヴァイオリン小協奏曲》ピアノ伴奏版全楽章を眞田彩氏と共に世界初演。

杉浦 希未 ソプラノ

Sugiura Nozomi



大阪音楽大学大学院歌曲研究室修了後渡欧。ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。トリノ音楽院歌曲科にて研鑽を積む。これまでにイタリア、オーストリア、ドイツ、チェコ、日本の各地でコンサートやオペラに出演。現在、神戸市混声合唱団団員、神戸サークル合唱団指揮者、女声合唱マリーゴールドハーモニー副指揮者、大阪音楽大学演奏員。

様々なコンサートに出演する傍ら、大阪・神戸にて後進への指導も積極的に行っている。

生島 美紀子 企画&レクチャー

Ikushima Mikiko



神戸女学院大学を経て、スタンフォード大学大学院修了、日本人初のM. A. 取得。大阪大学大学院博士課程修了、オネゲルの研究で博士号取得、論文を出版。オネゲル《交響曲第2番》《同3番》日本初スコア解説執筆。2006年以来、神戸女学院所蔵資料「大澤壽人遺作コレクション」にスタッフと共に携わり、目録『煌きの軌跡I・II』を編纂、『I』は音楽クリティッククラブ特別賞受賞。

2017年「天才作曲家大澤壽人一駆けめぐるボストン・パリ・日本」を出版、朝日新聞「今年の3点」に選出された。演奏会や講演会の他、大規模回顧展「大澤展」監修、楽譜校訂、ホームページ開設、CD制作など、長年の普及活動を評価され、2023年「第47回井植文化賞報道出版部門」受賞。大澤資料プロジェクト代表。

HISATO OSAWA VIII

SPECTACLE 大澤壽人スペクタクル

プログラム・ノート

Program note

神戸が生んだ天才作曲家の名品と古今の名曲

本日のプログラムは「大澤自身の名品」と、彼が編曲に取り上げた「古今の名曲」で構成されている。大澤の編曲作品は、作品総数約1000のうち400以上を占め、作曲作品に匹敵する豊かな世界を築いた。戦後の、ことに晩年の4年間に集中した仕事である。

大澤はJOBK(現NHK大阪放送局)とABC朝日放送で活躍。前者では「BKシンフォネット」(1950-51年)、「シルバertime」(51-52年)、後者では「ABCホームソング」「ABCシンフォネットアワー」(52-53年)という、計4つのレギュラー番組を担当し、これらを通じて編曲作品は世に広まっていった。

オーケストレーションの腕を発揮した編曲法は、ジャンルを自由に横断し、ピアノ曲は管弦楽曲へ、管弦楽曲は合唱曲へと生まれ変わった。編曲された古今の名曲はラジオ聴取者を喜ばせただけでなく、啓蒙の役割も果たした。留学先のボストン・パリで、大澤は西洋音楽の素晴らしさを母国に伝えるという強い使命感に目覚めていた。帰国後は戦争によって中断されたが、ラジオ音楽番組を通して着々と実現していったのである。戦後の日本に必要な「上質な中間層の音楽」を創作し、「クラシックをダイジェストして大衆の中に持ち込むのは俺の仕事だ」と語った大澤の信念だったと言えよう。

今日は大澤の名品と、彼自身が愛した西洋の名曲をどちらもお楽しみ頂きたい。



ラフマニノフ:《幻想的小品集》より 第3曲〈メロディ〉作品3-3

セルゲイ・ラフマニノフ(Sergei Rachmaninov, 1873-1943)はペテルブルグとモスクワ音楽院で学び、卒業後はロシア各地でピアニストとして名声を博した。有名な《ピアノ協奏曲第2番》を作曲したのは、20世紀冒頭を飾る1901年である。

《幻想的小品集》(1892年作曲)はモスクワ音楽院卒業時の19歳の作品で、5曲より成る。第3曲〈メロディ〉はゆったりとしたホ長調の旋律が、三連符の分散和音に乗って歌うように奏でられる。旋律は繰り返されながら音域を変え、調を変え、うつろいの中に音量を増していく。

テンポが少し早まり、リディア旋法による力強い旋律が調を変えて繰り返され、細かな分散和音がピアノの全音域を軽やかに駆け上がり、中間部を閉じる。やがて冒頭の旋律が戻って最弱音に消える。作品名通り、旋律と歌に満ちる音楽である。

なお、ラフマニノフは1940年にオリジナルから改訂しており、本日はこの改訂版を演奏する。

大澤が遺した創作ノートによれば、〈メロディ〉をジャズ編成に近い管弦楽用に編曲し、1951年「シルバータイム第22回」、52年「ABCシンフォネットアワー第9回」で放送した。

ラフマニノフ:《13の前奏曲》より 第5曲〈ト長調〉作品32-5

「前奏曲集」といえば、18世紀のバッハと19世紀のショパンの作品が全24調をめぐることで知られている。20世紀のラフマニノフの場合は、《幻想的小品集》に含まれる第2曲〈前奏曲=プレリュード〉を1曲と数え、これに30代で作曲された《10の前奏曲》作品23と《13の前奏曲》作品32を加え、計24曲となって全調が揃う。

〈前奏曲 ト長調〉(1910年)は心地よい中庸のテンポの中、やわらかな分散和音が中音域で流れ続ける。高音域ではト長調の主旋律が奏され、細かく装飾されて華麗さを増す。ト短調の中間部を挟み、長調の旋律が戻ると、輝きに満ちながらやがてトリルと共に消えていく。

ラフマニノフ:《幻想的小品集》より 第2曲〈プレリュード〉作品3-2

《幻想的小品集》より第2曲〈プレリュード〉(1892年)は「モスクワの鐘」と呼ばれ、その嬰ハ短調の響きが知られている。

「ゆっくり」という指示の下、ピアノの最低音域から始まる。まず2オクターヴのユニゾンで「ラ#ソ#ド〜」の3音が最強音で鳴り、それに最々弱音の和音がエコーのように続く。音域の広さと強弱の対比が、ドリア調とフリギア調の和音の交錯と重なり合って、聖堂の大空間を想像させる冒頭である。

「激しくかき立てられて」と指示された中間部は、断片的なパッセージが上行していき、頂点まで達すると、勢いをもった和音の塊となって下りてくる。

「重々しく」という指示で冒頭が戻り、厳かな和音がさらに厚みを増す。最低音の「#ド」が杭のように何度も打音され、その上声で8声和音が鳴り続けて、響きわたる壮麗な鐘を思わせる。私たちが今の世界情勢に思いをはせる時、それは鎮魂の鐘に聞こえるのではないだろうか。

HISATO OSAWA VIII

SPECTACLE 大澤壽人スペクタクル

ドビュッシー：《ベルガマスク組曲》より 第3曲〈月の光〉

クロード・ドビュッシー (Claude Debussy, 1862-1918) の《ベルガマスク組曲》は4曲から成るピアノ組曲で、中でも第3曲〈月の光〉(1890年)はよく知られている。「歩く速さでとても表情豊かに」と指示された変ニ長調の音楽は、最弱音で秘めやかに始まる。中音域から徐々に音域が広がると、低音の上で高音域の和音が揺れるかのように響く。

中間部では音型が変わり、分散和音が流れ始めてテンポが少し速まる。動きや音量が増していく中、旋律が伸びやかにうたう。やがて静まり、冒頭の音楽が一層秘めやかに戻って、夜の薄明かりに消えていく。

大澤はパリ留学から帰国した1936年に音楽雑誌に寄稿し、影響を受けた作曲家にドビュッシー、ストラヴィンスキー、シェーンベルクの3人を挙げた。その傾倒であろう、《ベルガマスク組曲》は第3曲までを全て管弦楽用に編曲している。まず初めに〈月の光〉を1951年に取り上げて「シルバertime第23回」で放送。翌52年には「BKコンサートホール」で再放送、さらに53年「ABCシンフォネットアワー第38回」の際には、東京フィルハーモニーが加わる大編成オーケストラによって演奏された。大澤のラジオの仕事が、関西圏を越えて拡がっていたと推測される。

ドビュッシー：《前奏曲集第1集》より 第10曲〈沈める寺〉

ドビュッシーが活動した19世紀後半以降は、作曲法の変遷期だった。ピアノ独奏曲のジャンルでは、1890年代に機能と声法による上記の《ベルガマスク組曲》が生まれ、1900年代の印象主義的な《子供の領分》が続く。そして1910年代を代表するのが《前奏曲集第1・2集》である。

20世紀の前奏曲集は、既述のラフマニノフ作品が24調を網羅するが、ほぼ同時期のドビュッシーの《第1・2集》全24曲は、網羅にこだわることなく、近代和声の世界を独自に切り拓いている。

《第1集》より第10曲〈沈める寺〉(1910年)は、洗練された書法による流麗な音楽である。ピアノの音域が上から下まで駆使され、5音音階やリディア調や、さまざまな響きが聞こえてくる。旋律は断片的なものも多く、深い海や波立ち、海上を吹き抜ける風や波間を透過する光など、次々に想起させる。

ホ調の最弱音に始まりハ調で最強音に達し、再びホ調の最弱音に戻るなど、動的なダイナミズムは変化していく海の情景と海底にたたずむ聖堂を対比的に表している。

こうしたドビュッシーの作風は、彼を敬愛し、自身が管弦楽大作を得意とする大澤にとって、挑戦的な編曲の仕事だったと思われる。1952年に手掛け、1週間後の「シルバertime第38回」で他5曲の新編曲と共に放送した。編曲と放送の日付が近いことや、編曲数が多いことからわかるように、大澤の創作は圧倒的な勢いで進められていた。

Program note

大澤壽人：ねんね河童

大澤は宝塚歌劇団出身の妻、澄子との間に三人の子供に恵まれた。だが長女の^{すみこ}邑子は幼い頃に不慮の事故で旅立ち、嘆きは大きかった。その心痛の痕跡は、封筒にまとめられた^{むらこ}邑子の写真が数枚あるのみで、内面を探ることは出来なかった。

しかし2022年の新発見によって、当時の心情が窺われるようになった。音楽プロデューサー・キュレーターの佐谷記世氏が、古書店で偶然手にした同人誌に大澤のピアノ独奏曲が掲載されていたのである。

発行は1944年9月。邑子が亡くなった2ヶ月後で「愛児^{すみこ}邑子の霊前に供へて ねんね河童」と記されている。佐谷氏から連絡を受けて、大澤資料プロジェクトが調査。筆致と作風からまさしく大澤の作品と判明した。

《ねんね河童》は繊細な小品で、上声で流れる「ミ〜ミレミ〜」の旋律と、それに寄り添うドビュッシー風の分散和音の特徴とする。旋律は「ねんねんよ〜」と歌いかける子守歌、微妙な色合いの分散和音は子を抱く父の優しさだろうか。本日の演奏は、人一倍子煩悩だったという大澤が、亡き子に寄せた追悼作品の「世界初演」である。

大澤壽人：ウッドブロックス

《ウッドブロックス》はアメリカに留学中の1933年に完成。翌34年にボストン日本協会主催による大澤の「作品展」で初演された。当時はボストン大学音楽学部とニューイングランド音楽院に籍を置く学生だったが、既に新進作曲家として同地で脚光を浴びており、初演はボストン大学で教鞭をとるピアニストのレイモンド・ヘイヴンスが行った。

自筆譜には英語で「古い芝居の場面から」と書き込まれ、ウッドブロックスは拍子木と推定される。小品だが、無調による大澤初の演奏会用作品という点で極めて重要であり、日本の洋楽作曲史においても注目される。

拍子木の空気を裂くような打音、その微妙な間合いなど、発想の核にある日本の音感が、西洋の作曲法と見事なバランスをとる独創的な音楽で、当時の彼が目指していた「ウルトラモダン音楽」そのものである。91年も前に作曲されたが、大澤のモダニズムは今の私たちにも新鮮にひびいて瑞々しい。作曲家の天恵の才が輝く作品である。

自筆譜は創作から87年を経た2020年に、ピアニスト小倉直子氏が校訂し、ミュージズ・プレス社から出版された。本日は校訂者自身による復活演奏となる。

HISATO OSAWA VIII

SPECTACLE 大澤壽人スペクタクル

シューマン:《3つの詩》作品29より 第3曲〈流浪の民〉

既述のラジオ音楽番組、「BKシンフォネット」「シルバータイム」「ABCホームソング」「ABCシンフォネットアワー」において、大澤は編曲だけでなく、企画・選曲・作曲・指揮も全て自ら行った。BKと朝日放送はそれぞれ所属オーケストラをもち、前者は大阪ラジオシンフォネット、後者はABCラジオオーケストラと呼ばれた。両楽団は大澤の指揮の下に鍛えられ、成長していったのである。このように大澤は作曲の領域だけでなく、広く関西楽壇を牽引するトップリーダーだった。

ロベルト・シューマン(Robert Schumann, 1810-56)の〈流浪の民〉は、E. カイベルの詩にもとづくピアノ伴奏の四重唱曲。女声2+男声2で編成されるが、大澤は管弦楽と混声四部合唱に編曲し、BKから1951年に放送された。52年に朝日放送から流れた際には、女声3+男声1という変則的な声楽アンサンブル(下里智恵子、松本寛子、木村とき子、横井輝男)だった。本日はオリジナル編成で演奏する。

大澤壽人:《ホームソング集》

1952年に始まった「ABCホームソング」からは毎週新しい歌が流れて、人々の愛唱歌となった。全部で49曲という半端な数字は、第49週まで来たところで大澤が急逝して番組終了となったからである。だが聴取者のリクエストで復活し、長寿番組となった後日談がある。その先鞭をつけたのが大澤だった。

《ホームソング集》は今聴いてもおしゃれな歌ばかりで、作曲スタイルもさまざま。明るく時にしみじみとした各曲は、音楽の力で人々の心の復興を目指そうとした大澤の「歌の花束」である。本日は色とりどりの花の中から、代表的な5曲を紹介する。

朝の九時すぎ 喜志邦三 詩

1953年4月の作品で、朝の忙しい生活の一コマが描かれた。平和な日常を取り戻した喜びが伝わってくる。

「ベルが鳴ってる 勝手口」
「ハイハイ 何誰となたでございます」
「電気屋です 集金です 先月分の電気代です」
ジリジリジリリン ジリジリジリリン
「あら また ベルが鳴っている」

「ベルが鳴ってる 勝手口」
「ハイハイ 何誰でございます」
「薬屋です 御家庭には 無くてはならぬ常備薬です」

「ベルが鳴ってる 勝手口」
「ハイハイ 何誰でございます」
「郵便です 不足税を お願いします 不足税です」

Program note

プログラム・ノート

マッチの箱 竹内はじめ 詩

本作でうたわれる「明日」という言葉は、《ホームソング集》の詩によくみられる。
復興中の明るい未来への思いがこの語に託された、1952年10月の作品。

マッチの箱から 何がでる
鶏が玉子を うむように
何かよいもの 出ないかな
そっと そっと あけましょ そっとね

マッチの箱には 何がある
星が話を するように
何かよい声 しないかな
そっと そっと ききましょ そっとね

マッチの箱には 何入れよ
あすの天気 のよいように
何かよい唄 入れないか
そっと そっと 入れましょ そっとね

晩秋 渡辺勉 詩

1952年11月に作曲されたこの歌は、シンプルに聞こえるが技巧的で味わい深い。
詩に合わせて拍子が微妙に変化しながら、優しいハーモニーが流れていく。

柿の実が 赤く露に 熟れたよ
ほら あんなに高く
けさ 梢に百舌鳥が
ひとこえ 百舌鳥が
キリリと 鳴いたから
秋も もうしまいだよ

山里は 深く霜に 寂びたよ
あれ あんなに遠く
けさ 炭焼く煙が
ひとすじ 煙が
ルルルと 立ったから
冬も もうまちかだよ

HISATO OSAWA VIII

SPECTACLE 大澤壽人スペクタクル

泣き黒子のラブ・コール 安西冬衛 詩

戦後の大澤を特徴づけるセミクラシックのスタイルで書かれた1953年4月の作品。
短調の「シャンソン」で大人の恋愛をうたう。

なんにもいわず
なんにもいわず
アメモネの 甘い花かけ
横顔 さびしく
愁^{うれい}に濡れて 泣き黒子^{ぼくろ}一つ
なんにもいわず
なんにもいわずに

なんにもいえず
なんにもいえず
前髪^{はなぐし}の 白い花櫛
おくれげ かなしく
愁にゆれて 泣き黒子一つ
なんにもいえず
なんにもいえずに

猫の子あげますいらっしゃい 竹中郁 詩

1952年9月の本作もセミクラシックで、ジャズの「スィング」するリズムが心地よく揺れる。
ユーモラスにうたわれる子猫の可愛さの中に、戦争で失われた幾多の命への想いが重ねられている。

猫の子あげます いらっしゃい
子猫八匹 ひげもある
きんぎん きん茶
みどりの目玉 光ります
紙ぶくろはいや 風呂敷はいやよ
バスケットもって いらっしゃい

猫の子あげます いらっしゃい
子猫八匹 耳もある
びくびく びくり
すまして口も 開きます
猫ぎらいはいや 三味線屋いやよ
バスケットもって いらっしゃい

Program note

プログラム・ノート

大澤壽人：桜に寄す ピアノ伴奏版

ボストンからフランスに渡った大澤は、1935年にコンセール・パドゥルー管弦楽団を率いて自作自演による演奏会を開催。大喝采を浴びて華麗なパリデビューを果たした。この成功によって、当時の邦人作曲家に稀な、国際的キャリアを築いた。

《桜に寄す》(35年)はそのデビュー演奏会で、ソプラノのM.クレンコ独唱によって初演された管弦楽伴奏による日本語歌曲で、このジャンルの代表作である。

当時のパリは19世紀後半以来の万国博覧会開催によって、日本文化への関心が深まっていた。この「ジャポニスム」を背景に《桜に寄す》は人気を博して、聴衆の拍手が鳴り止まなかったのである。

大澤自身による詩には、私たちに馴染みの《さくらさくら》が引用されている。冒頭から能管や琴の響きを感じさせる邦楽風のフレーズが聞こえ、春爛漫の雰囲気が漂う。やがて歌唱が洋楽オペラのレシタティーヴォを思わせる母音唱「あ〜あ」で始まり、アリアに当たる《さくらさくら》に導かれる。伴奏部分では《元禄花見踊り》も聞こえてきて、伝統の歌2曲が、西洋様式の芸術歌曲に生まれ変わっている。和魂洋才が端的に感じられると同時に、当時の大澤の日本人としての矜持が歌となって示されている。

自筆譜にはクレンコのために、日本語の歌詞がローマ字で書き込まれた。本日は彼女との練習用に、大澤自身が編曲したピアノ伴奏版を演奏する。(このピアノ伴奏版は、ホームページより浄書譜が無料ダウンロードできる。演奏に研究に活用されたい)。

あ〜あ、ふるさとの春の想いは

さくらさくら と歌うころ

弥生の空は 見渡すかぎり 霞みか雲か 匂いぞ出ずる

(ハミング)花に慕うとも いにしえのままに歌い

いざやいざや 見にゆかん

サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン 作品20

パブロ・サラサーテ(Pablo de Sarasate, 1844-1908)は19世紀を代表するヴァイオリニスト=コンポーザーの一人。《ツィゴイネルワイゼン》はジプシーの歌を意味し、超人的な冴えを披露する「ヴィルトゥオーソ」音楽として名高い。速いパッセージは言うに及ばず、重音やスタッカート、倍音を利用して超高音を出すフラジレット、指で弦を直接はじくピッツィカートは右手も左手もみられるなど、難度の高い技巧が要求される作品である。

大澤の《ツィゴイネルワイゼン》編曲は2種ある。1946年に「シルバーシリーズ・コンサート」で公開演奏した際は、独奏ヴァイオリンと独自の管弦楽編成だった。1953年の「ABCシンフォネットアワー第52回」では、作品のテンポの遅い部分に混声合唱を加えて放送した。

HISATO OSAWA VIII

SPECTACLE 大澤壽人スペクタクル

Program note

プログラム・ノート

■ マスネ：歌劇《タイス》より〈タイスの瞑想曲〉

戦後、進駐軍がもたらしたジャズの影響で、大澤の関心はシンフォニック・ジャズの創作に向いた。編曲作品の豊かさはまさしくこの実りであり、大澤が提唱した「上質な中間層の音楽」は、まさしくシンフォニック・ジャズ・サウンドによって実現されたのである。

〈タイスの瞑想曲〉はジュール・マスネ(Jules Massenet, 1842-1912)の歌劇における間奏曲で、1894年に初演。その甘美な旋律が知られている。原曲のヴァイオリン独奏と管弦楽という楽器編成を、大澤はサクソフォーン、トランペット、トロンボーン各4本を含む本格的なシンフォニック・ジャズ・オーケストラ用にした。既に留学時代からオーケストラレーションの腕を認められた名人技が光る編曲である。

1951年に「シルバertime第11回」で放送後、大阪扇町プールにおける「水辺コンサート」で公開演奏。53年には「ABCシンフォネットアワー第8回」から流れた。

■ 大澤壽人：ヴァイオリン小協奏曲「支那詩」より 第1楽章アレグロ・モデラート

足かけ6年の留学を終え、パリから帰国した1936年に作曲された《ヴァイオリン小協奏曲 支那詩》は、日本最初期のヴァイオリン協奏曲の一つである。翌37年に神戸女学院同窓会「めぐみ会」東京支部主催による「大澤壽人 作曲指揮交響演奏会」において、大澤指揮の新交響楽団(現NHK交響楽団)と日比野愛次のヴァイオリン独奏によって日比谷公会堂で初演された。

《支那詩》は当日のプログラムによれば、大澤が「支那の音楽に関する書物を読んで居る時、拾い上げた一つの旋律を中心にして作曲した」という。

全3楽章はボストン以来、追求してきた楽章構成「ソナタ形式—中間楽章—ロンド形式」をとっている。第1楽章はプログラムでは以下のように解説された。

第1主題はヴァイオリン独奏によって奏され、それが伴奏部の管弦楽と交互に展開して行く。第2主題はリズムミクな伴奏に対照する滑らかな旋律である。極く短い展開部が現れる。

本作品には大澤自身によるピアノ伴奏版が存在しないため、リダクション:生島美紀子、校訂:増田真結による編曲版(2015年)を演奏する。



大澤壽人公式ホームページ

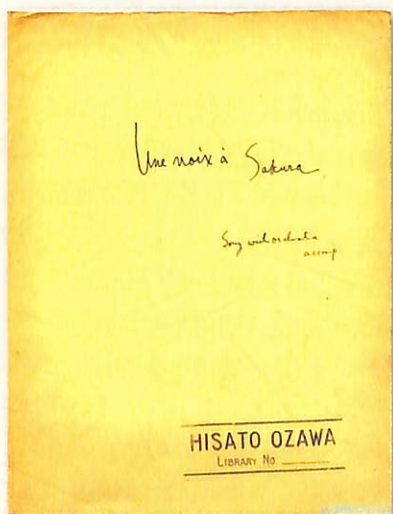
大澤壽人 煌きの軌跡

<https://osawa-project.org/>

大澤壽人 🔍



大澤壽人の代表的歌曲《桜に寄す Une voix à "SAKURA"》の楽譜がダウンロードできるようになりました。



楽譜のダウンロードはこちらから行えます。



<https://osawa-project.org/ScoreDownload/>

1935年にコンセルパドゥール管弦楽団を率いて《交響曲第二番》《ピアノ協奏曲第二番 ト短調》などを発表。華麗なパリデビューを果たした。自ら書いた詩の中に古謡《さくらさくら》が織り込まれ、当時名を馳せていたロシアのソプラノ、マリア・クレンコが初演した。国内や海外で活躍する日本人歌手のレパートリーにふさわしい名品。



作品の発掘からコンサートへ 「大澤壽人スペクタクル」における初演と再演

第1回 2009年

復活	ララー日が健やかにHS (独唱版)	永田桂 (S) 蜷川千佳 (Pf)
復活再演	猫の子あげますいらっしやいHS (独唱版)	永田桂 (S) 蜷川千佳 (Pf)
復活再演	幾山川をへだててもHS (独唱版)	山田愛子 (Mz) 蜷川千佳 (Pf)
復活	雨の日のスケッチHS (独唱版)	山田愛子 (Mz) 蜷川千佳 (Pf)
復活再演	星と歩いてHS (独唱版)	永田桂 (S) 蜷川千佳 (Pf)
復活再演	薔薇の花かげHS (独唱版)	山田愛子 (Mz) 蜷川千佳 (Pf)
復活	朝の九時過ぎHS (独唱版)	永田桂 (S) 山田愛子 (Mz) 蜷川千佳 (Pf)
復活	神戸女学院創立七十五年記念の歌	プティ・タ・プティ (Chor) 金月里紗 (Pf)
復活	祈り	プティ・タ・プティ (Chor) 金月里紗 (Pf)
復活	日本の女性 <small>にょしやう</small>	プティ・タ・プティ (Chor) 金月里紗 (Pf)
復活	てまりうた Rondó	田中聖子 (Pf)
復活	丁丑春三題 <small>ていしゅうはるさんだい</small>	田中聖子 (Pf)
世界初	桜に寄す ピアノ伴奏版	清水裕子 (S) 田中聖子 (Pf)
日本初	空の幻想	清水裕子 (S) 田中裕江 (Fl) 田中聖子 (Pf)
世界初	ピアノ協奏曲第一番イ短調 二台ピアノ版	増永智子・松川峰子 (Pf)

第2回 2010年

日本初	Chanty	清水裕子 (S) 田中聖子 (Pf)
日本初	Nocturne	清水裕子 (S) 田中聖子 (Pf)
日本初	さくらさくら編曲	清水裕子 (S) 田中聖子 (Pf)
再演	桜に寄す ピアノ伴奏版	斉藤言子 (S) 蜷川千佳 (Pf)
世界初	青いセレナーデ 二台ピアノ版	増永智子・松川峰子 (Pf)
再演	トランペット協奏曲 ピアノ伴奏版	神代修 (Tp) 徳永洋明 (Pf)
復活	つばめに託して母の歌える	斉藤言子 (S) プティ・タ・プティ (Chor) 金月里紗 (Pf)

第3回 2012年

復活	夜の女たちより 夢の花	本庄徳子 (Vo) 増永智子 (Pf)
復活再演	木の下ワルツ HS (独唱版)	本庄徳子 (Vo) 増永智子 (Pf)
復活	母の愛 HS (独唱版)	本庄徳子 (Vo) 増永智子 (Pf)
世界初	富士山	別所ユウキ (Pf) 松川峰子 (Pf)
復活	小デッサン集	松川峰子 (Pf)
復活再演	丁丑春三題	松川峰子 (Pf)
復活	便り	斉藤言子 (S) 蜷川千佳 (Pf)

第4回 2015年

復活再演	三つのプレリュード	別所ユウキ (Pf)
復活	ナイト・モノローグ	眞田彩 (Vi) 別所ユウキ (Pf)
再演	Chanty	山田愛子 (Mz) 蜷川千佳 (Pf)
再演	Nocturne	山田愛子 (Mz) 蜷川千佳 (Pf)
世界初	ヴァイオリン小協奏曲「支那詩」 ピアノ伴奏版第1楽章 <small>しなし</small>	眞田彩 (Vi) 別所ユウキ (Pf)
復活	春の扉 HS (合唱版)	神戸市混声合唱団 (Chor) 河内仁志 (Pf)
復活	ひまわりの歌 HS (合唱版)	神戸市混声合唱団 (Chor) 河内仁志 (Pf)
復活再演	公孫樹の Rondó HS (合唱版) <small>いしやう</small>	神戸市混声合唱団 (Chor) 河内仁志 (Pf)
復活	冬ごもり HS (合唱版)	神戸市混声合唱団 (Chor) 河内仁志 (Pf)
復活	薔薇の花かげ HS (合唱版)	神戸市混声合唱団 (Chor) 河内仁志 (Pf)

HISATO OSAWA VIII

SPECTACLE 大澤壽人スペクタクル VIII



第5回
2017年

復活	ロンディーノ	周防彩子 (S) 蜷川千佳 (Pf)
復活	つばめとはとのすれちがいHS (合唱版)	神戸市混声合唱団 (Chor) 金月里紗 (Pf)
復活	山のぼりのうたHS (合唱版)	神戸市混声合唱団 (Chor) 金月里紗 (Pf)
復活	虫売り物語HS (合唱版)	神戸市混声合唱団 (Chor) 金月里紗 (Pf)
復活	電車の中でHS (合唱版)	神戸市混声合唱団 (Chor) 金月里紗 (Pf)
復活	去年の服HS (合唱版)	神戸市混声合唱団 (Chor) 金月里紗 (Pf)
復活	木の下ワルツ HS (合唱版)	神戸市混声合唱団 (Chor) 金月里紗 (Pf)
世界初	ヴァイオリン小協奏曲「支那詩」 ピアノ伴奏版全楽章	眞田彩 (Vi) 須山由梨 (Pf)
復活再演	晩秋 HS (独唱版)	篠原美幸 (S) 蜷川千佳 (Pf)

第6回
2020年

コロナにより中止

2022年

幻の天才 大澤壽人の音楽遺産

復活再演	春の扉HS (合唱版)	声楽アンサンブル (Vo) 金月里紗 (Pf)
復活	ペダルを踏んで HS (合唱版)	声楽アンサンブル (Vo) 金月里紗 (Pf)
復活	春の南京町HS (合唱版)	声楽アンサンブル (Vo) 金月里紗 (Pf)
復活再演	薔薇の花かげ HS (合唱版)	声楽アンサンブル (Vo) 金月里紗 (Pf)
再演	富士山	土井緑 (Pf)
復活再演	ロンディーノ	芦原昌子 (S) 蜷川千佳 (Pf)

第8回
2024年

世界初	ねんね河童	小倉直子 (Pf)
復活再演	ウッドボックス	小倉直子 (Pf)
復活	朝の九時過ぎ HS (合唱版)	声楽アンサンブル (Vo) 金月里紗 (Pf)
復活	マッチの箱 HS (合唱版)	声楽アンサンブル (Vo) 金月里紗 (Pf)
復活	晩秋 HS (合唱版)	声楽アンサンブル (Vo) 金月里紗 (Pf)
復活再演	泣き黒子のラブ・コール HS (合唱版)	声楽アンサンブル (Vo) 金月里紗 (Pf)
復活再演	猫の子あげますいらっしゃい HS (合唱版)	声楽アンサンブル (Vo) 金月里紗 (Pf)

世界初=創作以降世界初となる演奏、日本初=国内で初の演奏、復活=大澤の没後初の復活演奏、HS=ホームソング



主催:大澤資料プロジェクト・神戸新聞社・(一財)神戸新聞文化財団
後援:(公財)神戸市民文化振興財団、(公社)神戸女学院めぐみ会、神戸音楽家協会
ラジオ関西、クラブファンタジー(神戸女学院音楽学部同窓会)
企画・文責/生島美紀子 デザイン/森のぞみ